

陸稲「トヨハタモチ」の播種期移動に伴う生育・収量・品質の変化		
[要約] 極早生の陸稲「トヨハタモチ」は4月下旬から6月上旬の播種であれば、収量・品質から見て実用的な栽培が可能であるが、6月下旬以降の晩播では収量、千粒重、品質が低下するため栽培は不適である。		
農業総合センター農業研究所	成果区分	技術参考

## 1. 背景・ねらい

現地における陸稲栽培においては、播種適期とかけ離れた播種期での栽培事例が見られるため、「トヨハタモチ」の広範な播種期について生育、収量、品質特性を確認し、栽培指導上の参考資料とする。

## 2. 成果の内容・特徴

- 1) 出芽は4月19日以前の播種期では出芽日数が長くなったことによる鳥害を受け、特に4月上旬までの播種期では被害が著しかった(表1)。
- 2) 出穂期、成熟期は播種期の遅れに伴い遅延したが、登熟日数は7月5日播種までは比較的安定している(図1)。
- 3) 稈長、穂数は播種期の遅れに伴う減少傾向は見られず、いずれの播種期においても生育量を確保した(図2)。また倒伏程度についても晩播に伴う変化は見られない(データ省略)。
- 4) 子実重は、4月上旬までの播種期では低収となり、4月下旬～6月上旬までの播種期では35kg/a以上の収量を維持する。しかし、以後の播種期では大幅に減収する(図3)。
- 5) 千粒重は6月上旬播種までは約21gを維持するが、以後やや軽くなり、特に7月以降の播種では低下が著しくなる(図4)。
- 6) 玄米品質は6月下旬播種以降でやや低下する傾向である(図4)。
- 7) これらのことから、4月下旬から6月上旬の播種であれば生育量・収量を確保しながら千粒重・品質も低下しないため実用的な栽培が可能であると考えられる。一方で、6月下旬以降の播種は低収で千粒重も軽くなり品質も低下するため栽培は不適である。

## 3. 成果の活用面・留意点

- 1) 水戸市上国井町農業研究所内の畑圃場(平成16年、表層腐植質黒ボク土)における単年度の試験である。
- 2) 鳥害を受けた試験区は約3～4葉期までに補植を行い苗立数を調整して栽培を継続した。
- 3) 圃場の乾燥程度に応じて適宜灌水を行っており、6月下旬以降の晩播により生育量が少ない状態で圃場が乾燥すると著しい干ばつ害を受ける可能性がある。

#### 4. 具体的データ

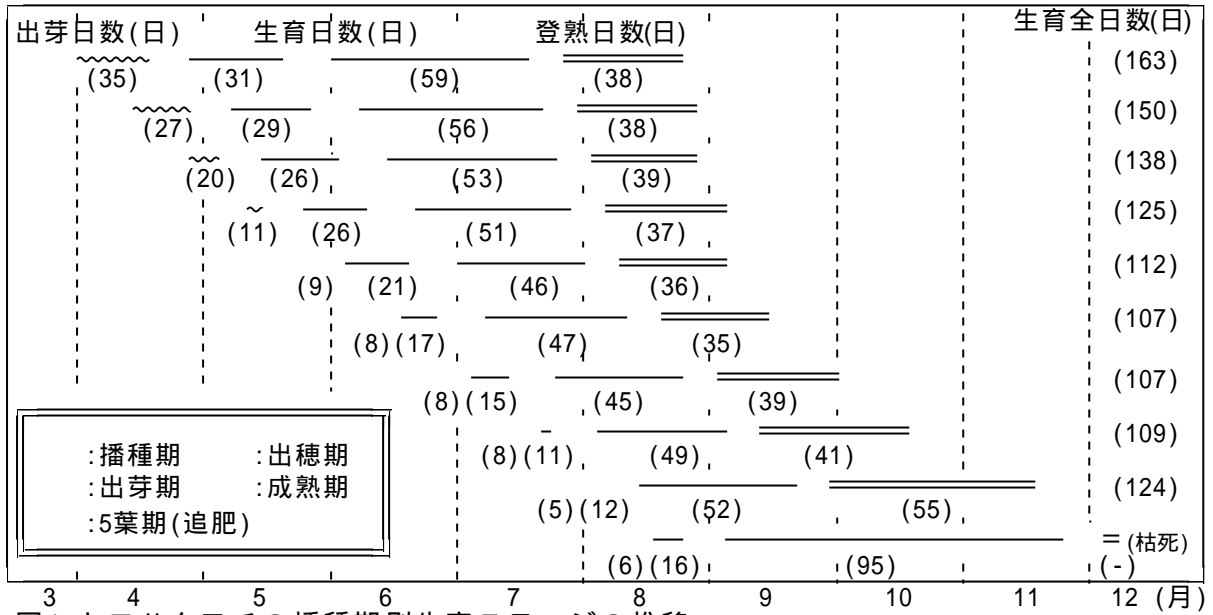


図1 トヨハタモチの播種期別生育ステージの推移

表1 トヨハタモチの播種期別出芽期・出芽日数等

播種期	出芽期	播種後鳥害	出穂期	成熟期
(月.日)	(月.日)		(月.日)	(月.日)
3.19	4.23	多~甚	7.22	8.29
4.5	5.2	多~甚	7.26	9.2
4.19	5.9	中	7.27	9.4
5.6	5.17	少	8.2	9.8
5.21	5.30	無	8.5	9.10
6.4	6.12	無	8.15	9.19
6.21	6.29	無	8.28	10.6
7.5	7.13	無	9.11	10.22
7.20	7.25	無	9.27	11.21
8.5	8.11	無	11.30	(枯死)

注) 播種後の鳥害:0(無)~5(甚)の6段階

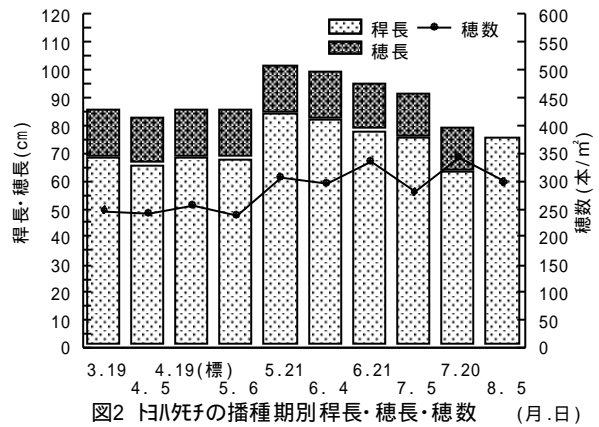


図2 トヨハタモチの播種期別稈長・穂長・穂数 (月.日)

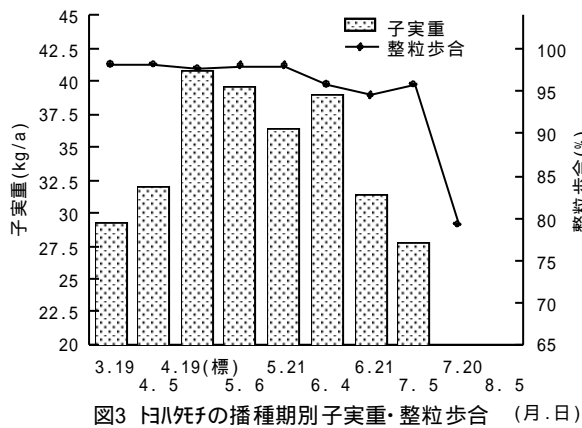


図3 トヨハタモチの播種期別子実重・整粒歩合 (月.日)

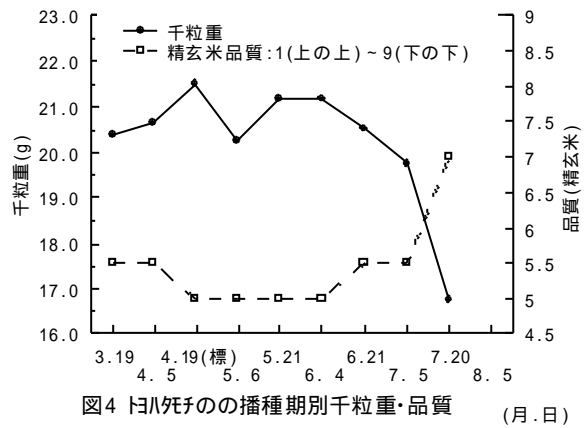


図4 トヨハタモチの播種期別千粒重・品質 (月.日)

#### 5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

主要雑穀類の品種選定と栽培法改善 陸稲の播種期移動試験・平成16年・作物研究室